

立ち上がれ、
立ち上がれ、
立ち上がれ、 KHR-1!

KHR-1

オプション・インプレッション Option-Impression

おさ
梓 みきお

ベストセラー二足歩行ロボット「KHR-1」のオプションを毎号取り上げているこの企画。今回はついに登場した“センサー入力”のためのパーツを特集。一步先行くKHR-1になるためには見逃せない!



センサーをつけて、よりカッコよく!



RSC-1 センサーコントロールボード
税込価格4725円

KHR-1は、キットのままだとセンサーが付いていない。ということは、例えば「歩く」モーションは“歩くための足の動き”を忠実に再生しているだけである。

つまり、ロボット自身は自分がどんな状態になっているかを判断していないので、たとえ転んだとしても、「歩く」というモーションに続きがあれば、かまわずに続け

ることになる。

ちょうど、ゼンマイ仕掛けの人形を倒した時に、脚の動きがそのまま続くのと同じ。それは、ハイテクのカタマリといわれる二足歩行ロボットのイメージを崩すのに十分なカッコ悪さだ。

センサーはいろいろ市販されている。しかしその市販のセンサーを付けようと思っても、KHR-1には取り付けられないのだ。なぜなら、KHR-1のマイコンボード「RCB-1」にはセンサーの入力端子がないのである。

ロボコンマガジンNo.38のこのコーナーで取り上げたジャイロセンサーは、ロボットの傾きに応じてダイレクトにサーボをコントロールする、いわば「反射」するセンサーだった。そのため、RCB-1とサーボの間に挟み、傾きから得られた補正値をジャイロセンサー自身からサーボに流している

ので、そのまま取り付けられた。

取り付けられれば、RCB-1でさまざまなセンサーが活用できるようになる。そうすれば「マイKHR-1」は、よりカッコよくなるのだ! そんなユーザーの声が届いたか(ウソです)この春に発売されたのが、この「RSC-1」だ。

搭載&設定方法

見た目はただの基盤のように見えるが、その通り、これはただの基盤である。「センサーコントロールボード」の名前の通り、これ単体の機能は“センサーをコントロールすること”。つまり、RCB-1の追加基盤である。地味だが、まさに「コレがなければ始まらない」パーツなのだ。

搭載方法は簡単。

縦30×幅25mmという小ささなので、RCB-1が2つ並んでいるすき間の部分にスッポリ入る(写真1) RSC-1の裏は端子がむき出しだが(写真2) この場所にラジコ



写真1



写真2



写真3